

---

◎議案第50号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（藤井 要君） 日程第3、議案第50号 専決処分の承認を求めることについて(令和2年度松崎町一般会計補正予算(第6号))の件を議題といたします。

議案の朗読は省略して、提出者から提案理由の説明を求めます。

○町長（長嶋精一君） 議案第50号 専決処分の承認を求めることについて（令和2年度松崎町一般会計補正予算（第6号））、詳細は担当課長より申し上げます。

（総務課長 高橋良延君 提案理由説明）

○議長（藤井 要君） 以上で提案理由の説明を終わります。これより質疑に入ります。

質疑を許します。

○2番（鈴木茂孝君） このプレミアム商品券ですけれども、河津町は20%、伊東市も20%ということで主に20%が多いわけですが、この50%という、ちょっと多いかと思われるような率にした理由を教えてください。

○企画観光課長（深澤準弥君） ご質問の件ですが、今回の緊急経済対策につきましてはプレミアム商品券のプレミアム率というところを、50%という破格の値段にしたことによってもう一度地域経済をもう一度地域内で回すという強い思いの元、50%という金額にさせていただいております。

○2番（鈴木茂孝君） 地域活性化ということが主な目的で、発行していると思うんですが、例えばですね、同じ補助率1万5千円でしたら、5万円で30%ということもできるわけですね。そうすると2万円多く、各世帯が2万円ずつ出すことになりまして、3千世帯弱ありますから、6千万多く、町中に出回るといふようなことも考えられるわけですが、その辺はどのようにして・・・、どのようにして50%になったかなというふうなところもありますけれど、もう一度、お願いします。

○企画観光課長（深澤準弥君） いろんな算定の方法もあるんですけれども、今回につきましては、個人の特別定額給付金10万円というものがまず出ておりまして、それが配布された後ということで、今回、上限を一世帯3万円というところにつけさせていただいた中で、今回は50%のプレミアムという形になってございます。

○議長（藤井 要君） 3回目ですので、鈴木君。

○2番（鈴木茂孝君） もう1点、別の角度から伺いますけれども、私、一般質問で、このプレミアム商品券で、宿泊業の方にも、支援になるんだよというようなお答えをいただきました。

これについて、ちょっと、説明をお願いいたします。

○企画観光課長（深澤準弥君） 今回のプレミアム商品券につきましては、利用される場所の事業所を募集させていただきまして、その中で、対応するという事になっております。で、今、おっしゃられた通り、宿泊施設も含めた中で、対応するという事で、今回も宿泊施設の方々からも、事業所の申し出をいただいております。その中で、今回のプレミアム商品券を・・・、食事とかそういったもので、宿泊施設等々で使っていただくことも、可能ですということで、今回出しております。今、ご指摘の鈴木議員からいうように、宿泊施設にもう少し、手厚くというようなご意見、この間、議会でもございましたが、今回につきましては、そういう、特別に、宿泊施設に向けた、というよりは、含めるというような形での対応とさせていただいた所です。

○議長（藤井 要君） 最後です。鈴木君。

○2番（鈴木茂孝君） そうですね、やはり、この、プレミアム商品券ですね、2軒しか入っていないということにして・・・、民宿の方が、なかなか、宿泊業に対して支援しているとはいい難いと思いますので、是非、別の機会を設けまして、是非、支援をお考えいただきたいと思います。以上です。

○1番（田中道源君） 今回のプレミアム商品券なんですけれども、事業者の選定というか、募集の時にですね、観光協会もしくは、商工会に加盟している事業者のみという事となっておりますかと思いますが、そのように、加盟している事業者だけとした理由をお聞かせいただけますでしょうか。

○企画観光課長（深澤準弥君） 今、ご質問の件ですが、町の方として、とりあえず、商工会と観光協会という所が、町の補助団体となっております。で、半官半民的な要素がございまして、その事業所のコミュニティーもしくは観光飲食宿泊業のコミュニティーという中で、共同していろんなキャンペーンとか、誘客等々をしていくグループという団体となっております。で、それに加盟している方、それと、今、最近多いのは、やっぱり加盟しない方っていうのも出てきておりますけれども、できるだけ加盟者を増やしてその中で・・・、強制ではないんですけれども、そういったコミュニティーの中で、一緒に一丸となって、町づくりに進むという中で、そういった加盟者を増やすという目的も今回含めまして、加盟の事業所という扱いにさせていただいております。その理由の一つとしては、やはり、それぞれが、個々で・・・、そういう団体に入りにくくなっている、というか、入っても、そういう、メリットがないという判断をされて入らない方々が増えている中で、やはり、ここはもう一度、そういったことでコミュニテ

ィーを作っていたいただいて対応していくような形ができればという思いもがございます。そういった中で今回については、商工会と観光協会の加盟者、事業所という括りにさせていただきました。ただし、今回、希望があって、今回から加入という方々にも対象とするということで商工会や観光協会には町の方からお願いをしてできるだけ、参加していただくというか、加盟していただくように促せないかというような話もしたところではございます。

○1番（田中道源君） お答えいただきまして、ありがとうございます。今、観光協会であったり商工会の加盟者を増やしたいという目的があるんだ、ということでございまして、なるほどと思いました。しかしながらですね、やはり、税金を使っているものでございまして、税金というものは、特定の所だけでなく、やはり、松崎町に住んでいる方々に、平等に行き渡らすというのが基本的には税金の使い方のあり方だと思いますので、今、おっしゃられた理由というのは、なるほどなと思う部分ではございますけれども、その一方でですね、入る、入らないも、やはり、それぞれの任意の部分というのがあると思いますので、その入っていない方々にも、不公平感のないようなことも、是非、考慮していただいでですね、こういった事業を今後進めるにあたっては、考慮していただきたいなと思います。以上です。

○町長（長嶋精一君） 広い見地からのご質問、ありがとうございます。おっしゃるとおりですね、うちの町は、やはり、観光を主体として、やっていかなければならないという町であります。しかしながら、全ての方々が観光に携わっているわけじゃないんですね、年金生活者もおられます。そういう方々に対しても、税金を使うわけですから、何らかのメリットがあると、というようなことを考えてですね、このようなプレミアム商品券を作ったわけでありまして。遠い高齢者の方々もですね、買い物支援タクシーに乗って町中の飲食店に食べにきていただきたいと、いうふうな気持ちで作りました。そして、観光業者、民宿は少ないかもしれませんが、民宿さんにも、おじいちゃん、おばあちゃんがご夫婦で泊まってもらいたいというような気持ちも併せてもっております。7月28日に販売されたわけでございますが、たくさん的高齢者の方々が購入しに来ておられました。私は、これは、非常に手応えを感じましてですね、非常に公平な見地から見てもですね、良い商品ではないのかなというふうに考えております。以上です。

○5番（深澤 守君） 2点ほどお伺いいたします。この4千500万あまりのお金って、これ、一般財源の方から出しているんですが、政府の方から2億何千万かの補助金等来ていると思うんですが、なぜ、そのようなものを使わずに一般財源から出してきたか、ということが1点とですね、もう1点、今町長の方からも答弁がありましたように、出だし、凄く、好調だったよ

うです。金額的にも1千5・6百万位のお金が出て、計算だと一人1万5千円の3千人、約、ですね。これ、好評になった場合、これ、予算が足らなくなる場合に追加あるのか、それ、追加した場合のですね、財源っていうのをちょっとお伺いしたいんですが・・・。

○総務課長（高橋良延君） まず、この4千550万円を全額、財政調整基金の繰入金ということにいたしました。地方創生の交付金につきましては、そのこの所は、まだ、配分が不透明なところもあったものですから、ここは、4千550万円は、いったん、財政調整基金の取り崩しということで、させていただいて、あとで、地方創生交付金こちらを充当するという形で・・・、実は、この後の補正予算の第7号において、地方創生交付金、そちらに、充当いたしまして、逆に財政調整基金に積み立てをするというような財政措置をしておりますので、そこをご理解いただきたいなということでございます。

○企画観光課長（深澤準弥君） 2つ目の質問につきまして、ですけれども、こちらにつきましては、今回の予算で各世帯に・・・一世帯に限るという形にさせていただいておりますので、全世帯に行き渡るような、算定をしております。これが、好評になって、また、違う形で、経済対策というのが必要になった場合には、また、改めて、今度は違う形でやるのか、もしくは、これを追加するのかという形がまた検討するようにはなってございます。

○5番（深澤 守君） そういう意味じゃなくてですね、今計算だと一世帯1万5千円の計算でやってますよね、これ、もし、2万円になったら足りなくなりますよね・・・、一世帯、2万円ずつ買ったら・・・。そういう意味じゃない・・・、わかりました、はい。

○議長（藤井 要君） いいですか、答弁はいいですか。

（○5番（深澤 守君）「はい。」）

○議長（藤井 要君） いいそうですので・・・。他に・・・。

○6番（渡辺文彦君） このプレミアム商品券を使用できる期限が、来年の3月までだっけ・・・。2月か・・・、そこまで切っている理由をちょっとお伺いしたいんですけど・・・。もう少し、長くてもいいのかなっていうような気がするんですけど・・・。

○企画観光課長（深澤準弥君） 先ほど、財源の話がありました時に、この新型コロナ対応地方創生臨時交付金につきましては、年度内の支払いをするということになっておりまして、その関係があるものですから、2月の28日ということで一度切らせていただいて、それで3月中に支払いを済ませるという条件になっておるものですから、そこで、ちょっと早めなんですけれども、本来であれば、3月31日で支払い猶予が5月まであるっていうところでございますが、今回の交付金については、3月中に支払いをという条件がございますので2月にさせていただ

いた次第です。

○議長（藤井 要君） 他に質疑はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（藤井 要君） 質疑がないようでありますので、質疑を終結したいと思います。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（藤井 要君） 異議なしと認めます。

よって、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（藤井 要君） 反対討論なしと認めます。

次に、本案に対する賛成討論の発言を許します。

（発言する者なし）

○議長（藤井 要君） 賛成討論なしと認めます。

これをもって討論を終了します。

これより議案50号 専決処分承認を求めることについて(令和2年度松崎町一般会計補正予算(第6号))の件を挙手により採決します。

本案は原案のとおり承認することに賛成の諸君の挙手を求めます。

（挙手全員）

○議長（藤井 要君） 挙手全員であります。

よって、本案は原案のとおり承認することに決しました。

---